

会長便り158

作者： Administrator

2015年 6月 10日(水曜日) 00:00 - 最終更新 2015年 9月 10日(木曜日) 13:26

会長 便り

北光会の発展を願って ～会長退任に当たって～

菊 地 芳 朗 (GS31)



今年の冬は天候が安定せず北海道では大雪となりました。これも温暖化の影響でしょうか。被害を受けられた方々にはお見舞い申し上げます。

一昨年から活動支援金のご寄付をお願い致しましたところ、多く

の皆様からご支援を頂き本年度は2月末現在253件1,806,896円のご芳志を賜りました。昨年度頂きました267件2,366,226円を加えますと総額520件4,173,122円となります。ご寄付を頂きました皆様には、心より厚くお礼申し上げます。

さて、3月22日に卒業式がありました。本年卒業の皆様は平成23年の入学です。

平成23年は私どもにとって二つの大きな出来事がありました。

一つは、何と云っても3月11日の東日本大震災です。地震と津波による未曾有の大災害で、これに原発事故が重なりました。卒業式と歓迎会は行うことが出来ませんでした。そして入学式も行うことが出来ませんでした。その時の入学生が今年の卒業生です。

二つ目は、母校の創立100周年記念事業です。10月に記念式典を行うことが出来ました。

新正会員歓迎会の挨拶でこれらのことを踏まえ、震災で受けた試練を糧とし、100周年の伝統ある母校の卒業を誇りに思い前向きの姿勢でこれからの人世を歩んで頂きたい、とお祝いの挨拶を述べた次第です。

北光会は、依然として財政のことで苦しんでおります。

その為には、会費納入率の向上と経費の削減に努めなければなりません。経費削減の一つとして苦渋の選択ですが、平成5年以前の卒業生で、会費を10年以上未納の方には、3月に行われました理事会の承認を得て10月に発行されます次の「北光」から会費が納入されるまで、配布を停止することになりました。

秋田鉱山専門学校は鉱山技術者の育成を図るために設立されました。しかしながら昭和の時代が終わる頃から国内の鉱山は閉山し、現在は石油鉱山など幾つかの鉱山が残るだけです。母校は平成2年から採鉱、冶金など直接鉱山をイメージする学科から資源、素材など直接鉱山をイメージしない学科に名称を変えました。そして平成10年から工学資源学部となりました。

会費納入者数を見ますと、学科名を変えた平成2年の入学生が卒業した平成6年から未納者が増加しております。これは鉱業関係に勤める卒業生が少なくなったことも原因の一つと思われます。

これに対し平成5年卒業以前の会費納入状況を見ますと直接鉱山をイメージする採鉱、鉱山、採油、探鉱、地質、冶金の学科は平均より高い納入率ですが、鉱山とは直接関係ないと思われる土木、電子などの納入率は平均より低いのです。このことは若年層ばかりでなく全体として直接鉱山と関係の少ない学科の納入率が低いことを意味しております。

私共は、勿論母校の開学の精神は大事にしていかなければなりません。しかし時代の変化と共にその時代に適合した考え方を持って行かなければならないと思います。この様なことも意識改革の一つと思うのです。

昨年、国際資源学部と理工学部が設立されました。これに伴い北光会の定款を改正しました。鉱工業を資源に変え、更に理学、工学を取り入れて行くことにしました。

その為には準会員、正会員共にきめ細かな対応が必要と思います。5月の総会で定款の一部を改正し準会員、正会員共にクラス幹事を置くことに致します。ご協力をお願いします。

平成16年の総会で会長に就任してから11年になります。この5月の総会を持って退任することになりました。

会長就任に当たり森 泰前会長から「同窓会は学校あつての同窓会、学校の上に立ってはならない」と云われました。私は、これに「同窓会は皆平等」の考えを入れて行ってきました。果たして全てをこの心構えで来られたか、甚だ心許ない感じもします。

母校の創立100周年記念事業、台湾総会、東日本大震災義援金募金や国際資源学部・理工学部が共に北光会になることなど何とか無事に終えることが出来たのは会員皆様のご理解とご協力のお陰と、衷心より感謝申し上げます。有難うございました。